

日本旧石器学会

ニュースレター 第31号 NEWS LETTER No. 31

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



国際第四紀学連合 (INQUA) 第 19 回大会報告

出穂雅実 (首都大学東京)

2015 年 7 月 26 日 (日) ～ 8 月 2 日 (日) の 8 日間、名古屋国際会議場において国際第四紀学連合第 19 回大会が開催されました。この大会の主催は国際第四紀学連合、日本第四紀学会、および日本学術会議で、日本旧石器学会を含む 54 の学術団体や研究機関および地元自治体から共催、後援、協賛を受けました。大会参加者数は総計 1,789 名、そのうち日本からは 477 名、外国からは 67 の国や地域から 1,312 名が参加しました。大会開会式は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、900 名が参加しました。

日本での開催は今回が初めてであり、この度の日本開催では、世界のトップレベルの研究者が一堂に会し、最新の研究成果について討論や発表が行われ、それによって日本の第四紀学の研究水準を高める大きな意義が期待されました。また、この会議では社会のための第四紀学を目指して、大会に先立つ 5 回の普及講演会の開催を含め、第四紀学研究者がこれまでに明らかにしてきた知見を社会に還元し、科学に関する一般社会の興味を大いに高めることが期待されました。

大会のメインテーマは「第四紀学からみた気候変動・自然災害・文明」であり、自然災害軽減のための第四紀研究、気候・海水準・環境変動予測高度化のための過去の変動の理解と定量化、人類と環境の動的相互作用の解明、第四紀層序学・年代学のための新しい技術と成果の統合を主要題目として、研究発表と討論が行われました。

一般発表の講演総数は 2,113 件で、内訳は口頭発表が 1,191 件、ポスター発表が 922 件でした。口頭発表は 122 のセッションに振り分けられ、14 会場で 6 日間にわたって息つく間もないくらいの濃密な内容で行われました。このうち考古学に関連する、生物と人類圏コミッション (HaB COMM) のセッションは 34 ありました。ポスター発表は毎日 200 件以上のポスターが 4 日間に

わたって掲示され、熱心な議論が行われました。この他、一般発表終了後の夜間には、HaB COMM を含む INQUA の各コミッションや研究グループのビジネスミーティングが開催されました。

私は、本大会の組織・運営に関わると共に、セッション「北ユーラシアにおける最終氷期最盛期 (LGM) への人類の技術的・行動的適応」を主催しました。コンビーナは出穂、ローレンス・ストラウス (ニューメキシコ大)、イアン・ブーヴィットとカリーサ・テリー (セントラル・ワシントン大) の 4 名でした。このセッションでは、過去 4 年間に日本第四紀学会と INQUA の HaB COMM の研究プロジェクトとして進めてきたテーマを取り扱いました。発表は、口頭発表 18 本 (国外 9 本・国内 9 本)、ポスター発表 5 本 (国外 1 本・国内 4 本) から構成され、ユーラシアの当該期の中心的な課題にアプローチする発表がまず行われ、ロシア、中国、および日本の当該期の具体的な考古学的成果の発表が続き、最後に日本列島の古植生に関する発表が行われました。シベリア無人地仮説やヨーロッパの人類移住と社会の複雑化など、LGM の寒冷期と人間の行動戦略や社会変化との関係を追求する発表から、特に 1980 年代以降から



写真 1 LGM 先史セッションで講演するニューメキシコ大のローレンス・ストラウス教授 (中沢祐一撮影)

集中的に行われるようになった LGM の人類と環境の問題の研究が最近ますます進展し、大きな成果と新たな課題が見えてきました。また、この問題にこれまであまり参照されてこなかった地域の最新の成果も豊富に蓄積され始めており、これらの成果を含めた今後の研究の進展が大きく期待できることも見えてきました。さらに、日本の古植生の研究の精緻化が一定の水準に達し、植生の構成やその時間的・空間的変異を詳細に追求する段階に来ていることを知ることができました。

大きな国際学会では、私が例年参加するアメリカ考古学協会の年次大会でもそうですが、自分の参加するセッションの発表と、別の参加したいセッションの会場を分刻みで走り回って発表を聞き、夜はお酒も交えて情報交換を活発に行い、毎日クタクタになるまで疲れ切ります。国際会議に参加している実感が沸きます。今回の大会は、組織委員としての仕事も抱えていたため、どれだけうまくスケジューリングしても、興味のある発表を全て聴くことは出来ませんでした。興味のある発表全部を聴くことが出来ないのも、むしろ割り切って、自分の全く知らない分野・地域のセッションもあえて参加していくつか聴いてみました。この試みは予想外の大成功で、研究の前提、方法、結論の提示の仕方や発表の構成など、自身の研究成果の提示の仕方を考えるうえで非常に良い参考になりました。最近は研究分野・専門の細分化や、日常が著しく多忙になっていることもあり、自分の研究発表だけでも大変で、関連分野の発表はおろか自分の専門分野の発表すらも十分勉強する時間が無いという方も多いと思いますが、私にとってはそういった点を反省して捉え直す良い機会となりました。今大会にはたくさんの日本の旧石器時代研究者が参加していましたが、このような大きな国際会議への参加経験を通して、さらに高い水準の研究に結びつくことを期待しています。

次回、2019 年大会はアイルランドのダブリンで開催されることが決まりました。私は 2015 ～ 2019 年の 4 年間で HaB COMM の副委員長として次の大会に臨むことになりました。この 4 年後の大会に日本旧石器学会の会員が今回以上に多数参加し、さらに日本の旧石器研究が前進することを期待して準備したいと思います。

なお、本大会に関する正式報告書は近日刊行される予定です。大会全体の報告は日本第四紀学会

の第四紀通信に掲載予定です。また、日本政府観光局 JNTO コンベンションニュース NO.47 には、奥村晃史組織委員会副会長による大会組織・運営に関するインタビューが掲載されています。さらに関連学会のニューズレターでも多数取り上げられる予定ですので、あわせてご参照ください。

2014 年度日本旧石器学会賞 受賞者報告

ニューレター第 30 号で報告しましたとおり、2014 年度学会賞に須藤隆司氏（明治大学黒耀石研究センター）、2014 年度奨励賞に鹿又喜隆氏（東北大学大学院文学研究科）と森先一貴氏（文化庁）が決定しました。「日本旧石器学会賞選考委員会による選考理由」及び「受賞者の言葉」を報告します。

2014 年度学会賞：須藤隆司氏（明治大学黒耀石研究センター）

選考理由

学会賞は、旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員に授与する。須藤隆司氏は、当学会の会誌「旧石器研究」に会員中最多の総計 5 本の論文を投稿しており、当学会並びに日本の旧石器研究を推進する中心的な研究者の一人である。須藤氏の研究は、オーソドックスな編年研究、石器型式研究、集落研究を中心に展開されていたが、1990 年代後半以降の研究では、石器機能論、社会生態論などの理論や方法論を取り入れ、緻密な石器の観察に基づく汎列島的な石器群の構造変動に関する独創的な論文を発表している。また、長野県考古学会や岩宿フォーラム実行委員会をはじめとする地域研究会の活動に積極的にかかわることにより、地域に根差した旧石器研究の発展にも寄与している。以上の業績は学会賞に値するものとして須藤氏を 2014 年度の受賞候補者として選考した次第である。

（日本旧石器学会賞選考委員長 島田和高）
受賞者の言葉（須藤隆司）

このたびは、日本旧石器学会の荣誉ある学会賞を頂き、大変光栄に思います。大学以前は、中学 1 年の時に郷土高崎で石鏃を拾って石器に魅了され、中部高地の遺跡（矢出川・馬場平・上ノ平遺跡など）探訪で旧石器を手にししました。明治大学在籍時は、中部高地の矢出川・鷹山遺跡群、北関

東の細原遺跡、武蔵野台地の嘉留多・廻沢北遺跡、北九州の泉福寺洞穴などの発掘調査で旧石器時代遺跡を学びました。新設された考古学博物館の展示で岩宿・砂川・武井・荒屋遺跡等々の学史を彩った旧石器と格闘したことも貴重な経験で、博物館報の藪塚遺跡報告では技術構造研究に着手できました。佐久市教育委員会奉職時には、幸運にも立科F遺跡の調査で環状集落の問題提起、八風山II遺跡の調査で石刃技術開発の問題提起ができました。長野県旧石器文化交流会・岩宿フォーラム実行委員会・石器文化研究会の活動では、信州黒曜石原産地と関東地域を遊動した旧石器集団の地域適応行動を考察する経験知が蓄積できました。現在、旧石器集団の多様で柔軟な技術の開発・選択・組み替えの歴史的過程を知るために、日本列島を遊動して旧石器の緻密な観察を継続しています。私の挑戦的な研究を可能とするのは、旧石器学会の皆様や多くの方々のご協力の賜物です。皆様方に感謝を申し上げるとともに、更なるご指導とご支援をお願い申し上げます。

2014 年度奨励賞：鹿又喜隆氏（東北大学大学院文学研究科）・森先一貴氏（文化庁）

選考理由

奨励賞は、研究者の育成と研究の奨励を目的として、会誌「旧石器研究」等学会刊行物に優れた業績を発表した会員に授与する。近年の会誌「旧石器研究」他に論文等が掲載された若手研究者を中心に選考を行った。鹿又喜隆氏は「北海道における初期細石刃石器群の機能研究―千歳市柏台1遺跡出土石器の使用痕分析―」（「旧石器研究」第9号）において、柏台1遺跡における骨角器の製作とこれに関連する作業空間の構成を石器使用痕分析から明らかにし、骨角器製作を含む完成した

細石刃の複合的な技術が、北海道細石刃石器群の出現期を特徴付けると指摘している。森先一貴氏は「東北地方後期旧石器社会の技術構造と居住形態」（「旧石器研究」第9号）において、東北地方における後期旧石器時代前半期から後半期への居住形態の変化を論じている。氏の編年に基づく技術構造の変化、器種多様性と移動性の相関、石器製作類型の変遷など複数の手法から居住形態の変化を復元し、古気候編年との対比もふまえ資源開発戦略の歴史的变化として評価している。鹿又氏と森先氏の論文に見られる手法の明確性とテーマの発展性は、奨励賞の趣旨と合致するものであり、両氏を2014年度の受賞候補者として選考した次第である。

（日本旧石器学会賞選考委員長 島田和高）

受賞者の言葉（鹿又喜隆）

2015年の日本旧石器学会・仙台大会にて奨励賞をいただいたことは、私自身にとっても、東北地方の研究者の一人としても光栄なことだと感じました。それは、学会設立の背景に2000年の「前・中期旧石器時代遺跡捏造問題」があったからです。2000年当時、東北大学の博士課程に居た私は、仙台市周辺の後期旧石器時代遺跡を博士論文のひとつの対象として研究しておりました。それらの後期旧石器時代遺跡にも捏造の可能性がある資料が含まれ、学術資料として使用できない状況になったので、突然、目の前が閉ざされたような気持ちになりました。幸運にも、もうひとつ取り組んでいた細石刃石器群の機能研究が、私の考古学研究を継続させてくれたと改めて感じます。今回の受賞論文である「北海道における初期細石刃石器群の機能研究―千歳市柏台1遺跡出土石器の使用痕分析―」は、その延長線上にある研究であり、格別の思いがあります。柏台1遺跡という重要遺跡を分析させて頂いたことに関係の皆様にお礼を述べると共に、私の研究を支えてくださった皆様に改めて感謝いたします。また、東北地方の旧石器研究をさらに発展させることができるように、今後も発掘調査と遺物研究を着実に進めたいと思います。

受賞者の言葉（森先一貴）

このたびは日本旧石器学会奨励賞をいただき、大変光栄に思っております。受賞論文「東北地方後期旧石器社会の技術構造と居住形態」は、東京大学大学院に進学して以来の研究内容を、居住形



写真2 授賞式風景1



写真3 授賞式風景2

態という視点から取りまとめたものです。

私は大阪大学文学部の考古学研究室で、弥生・古墳時代の発掘に参加しつつ学部時代を過ごしましたが、どういうわけか旧石器時代に興味を持ち、近畿地方の旧石器研究をはじめました。以来、技術論と編年論を中心に研究を続けてきました。しかし、実際は石器を残した人々が、どういった環境のもとでどのような生活を営んでいたかという点に、学部時代から一貫して興味を持っていましたので、東京大学で博士論文を提出した後は、自らの研究の限界、今後の研究展開に悩む日々でした。最近になってようやく、環境と人間行動の関係を追究する考古学的方法について落ち着いて考える機会があり、これを東北地方の旧石器研究で実践したものが本論文でした。それだけに今回の受賞の喜びもひとかたならぬものがあります。

いま私は、機会を得て東京霞ヶ関で埋蔵文化財保護行政に携わっています。職務内容は大きく変わりますが、そうした環境で研究を続けてこられた諸先輩方の努力に改めて思いを致し、今回の受賞を励みとして、少しずつ前進していきたいと思えます。ありがとうございました。

役員選挙について

2015年12月16日

会員各位

日本旧石器学会選挙管理委員会
委員長 都築恵美子

日本旧石器学会の役員選挙告示

日本旧石器学会会則6・7条および役員・会計監査委員・顧問選出規定により、下記のとおり、

役員選挙を実施いたします。

記

1. 立候補者・候補者推薦の受付

立候補者および候補者推薦は、別記作成方法により、2016年2月1日（月）までに日本旧石器学会選挙管理委員会（〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学人文社会科学部社会学科山岡拓也研究室 日本旧石器学会事務局）に届け出てください。その折に公報に掲載する原稿は100字以内です。

2. 選挙公報・投票用紙

2016年2月中・下旬に発送します。

3. 投票期間

2016年3月1日（火）～3月20日（日）

4. 役員の決定

投票の結果、得票数の上位22位までを役員とします。ただし北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州・沖縄7地区の上位得票者から役員1名を選出し、他15名を上位得票者数によって役員とします。辞退者がいる場合は順次繰り上げとなります。

5. 被選挙権のない会員

現役員22名は全員改選の対象になります。以下の会員を除く全会員に被選挙権があります。被選挙権がない会員は、伊藤 健、岩谷史記、門脇誠二、鹿又喜隆、鎌田洋昭、軽部達也、絹川一徳、笹原芳郎、芝康次郎、高倉 純、丹羽野裕、藤田尚、山岡拓也です。

2015年12月16日

立候補者・推薦者各位

日本旧石器学会選挙管理委員会
委員長 都築恵美子

日本旧石器学会の役員選挙にかかわる公報の原稿作成について（依頼）

役員選挙立候補・推薦にかかわる公報の原稿については、下記により作成方お願いいたします。

記

1. 原稿作成方法

A4判横書きのペン書き、またはワープロ原稿（A4、10.5ポイント、横書き、ワード他）。なお、

ペン書きの原稿はワープロ原稿に直して掲載します。

1. 推薦候補

①候補者名、②推薦内容、③推薦者氏名

2. 立候補

①立候補者名、②自薦内容

②の内容は 100 字以内でお願いします。

2. 送付方法

下記に郵送してください。推薦候補の場合は、本人の承諾を示すサインまたは押印、推薦者のサインまたは押印が必要です。また、立候補の場合は電子メールに添付して送付しても構いません。

3. 原稿締切

2016 年 2 月 1 日（月）

送付先

〒 422-8529

静岡市駿河区大谷 836 静岡大学人文社会科学部
社会学科山岡拓也研究室

日本旧石器学会事務局

電子メールアドレス jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

日本旧石器学会役員選挙日程（案）

2015 年

12 月 選挙告示

2016 年

2 月 1 日（月）立候補・候補者推薦の締め切り

2 月中・下旬 選挙公報及び投票用紙送付

3 月 1 日（火）～ 3 月 20 日（日）選挙期間（3 月 20 日消印まで有効）

（ニュースレター第 30 号では投票期間を 4 月までとしましたが、日程の都合上 3 月とさせていただきます）

3 月下旬もしくは 4 月上旬 選挙管理委員会による開票

5 月 ニュースレターにて選挙結果報告

6 月 総会にて選挙管理委員長報告

第 8 回アジア旧石器協会（APA）
日本大会開催要項

第 8 回アジア旧石器協会日本大会実行委員会

ニュースレター第 30 号でお知らせしましたとおり、2016 年にアジア旧石器協会の第 8 回大会が日本で開催されます。会場は、首都大学東京です。大会のテーマは、「アジアにおける旧石器

時代研究の最近の進展（Recent Progress of the Paleolithic Research in Asia）」です。本大会はシンポジウムと一般セッションから構成されています。シンポジウムのテーマは、現在世界各地の研究者が、ホモ・サピエンス拡散の時期とルート解明を目指して盛んに議論している「アジアにおける初期上部旧石器時代（IUP）研究の現在」を企画しています。

大会に関する最新の情報は、日本旧石器学会のウェブサイト（<http://palaolithic.jp/index.htm>）でご確認ください。第 8 回日本大会に関するお問い合わせは、日本大会実行委員会（apajapan@gmail.com）までお願いします。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

I. 概要

第 8 回アジア旧石器協会（APA）日本大会

テーマ「アジアにおける旧石器時代研究の最近の進展」

主催 日本旧石器学会

日本大会実行委員

委員長：出穂雅実

プログラム委員：佐藤宏之、森先一貴、佐野勝宏、出穂雅実

実行委員：伊藤 健、絹川一徳、芝康次郎、鈴木美保、高倉 純、野口 淳、藤田 尚、藤野次史、山岡拓也

1. 日時

2016 年 6 月 24 日（金）～ 6 月 28 日（火）

2. 開催場所

首都大学東京南大沢キャンパス（東京都八王子市南大沢 1－1）

3. 日程

6 月 24 日（金）

13:30-17:30 レジストレーション

18:00-19:30 ウェルカムパーティー

6 月 25 日（土）

09:00-12:00 シンポジウム

「アジアにおける初期上部旧石器時代（IUP）研究の現在」

12:00-13:30 昼食（12:20-13:30 に JPRA 総会）

13:30-17:30 セッション（1）

6 月 26 日（日）

09:00-12:00 セッション（2）

12:00-13:30 昼食

13:30-17:30 セッション（3）

18:00-20:00 フェアウェルパーティー

6月27日(月)

巡検(東京近郊を予定)

6月28日(火)

海外参加者出国

II. シンポジウム・セッション

1. シンポジウム「アジアにおける初期上部旧石器時代(IUP)研究の現在」

本シンポジウムのテーマは、今日のアジアにおける進化人類学・旧石器研究で、最も重要な論点の1つである。また、中東、東ヨーロッパ、中央アジア諸国、さらにアジア旧石器協会加盟4カ国にも密接に関連する話題でもある。当該研究の一線の研究者と各地の現状を集約し、IUP研究の現状と課題を共有する機会としたい。

2. セッション

セッションのテーマは、幅広い研究内容を受け付けるため、事前には設定しておりません。申請のあった発表要旨内容をプログラム委員で検討し、該当するテーマごとに振り分けます。下記申し込みに従って、ふるってお申し込みください。

III. 申し込み

1. 発表要旨

第8回APA日本大会では、口頭発表とポスター発表の発表者を募集いたします。発表要旨に口頭発表かポスター発表のどちらを希望するかを明記してください。発表要旨はプログラム委員が査読し、口頭発表の希望が多数の場合はポスター発表への変更をお願いする場合があります。発表要旨は、下記の指示に従って、MS-Wordファイルで下記のアドレスに2016年2月5日(金)までにお送りください。

日本大会実行委員会宛

e-mail: apajapan@gmail.com

- ・日本旧石器学会ウェブサイト(<http://palaolithic.jp/index.htm>)で取得できるテンプレートに従って、MS-Wordで用紙を作成してください。テンプレートのフォーマットは変更しないでください。提出された要旨はそれ以上の編集はせずに直接印刷します。
- ・発表要旨はタイトルや名前を含めてA4サイズの用紙1枚以内です。
- ・発表要旨は英語でタイトル、名前、所属も入れてください。図版、表は1枚以内に収まるように直接張り込んでください。

- ・口頭発表かポスター発表のどちらを希望するか明記してください。

2. 登録

登録用紙を記入して、日本大会実行委員会(apajapan@gmail.com)へ2016年2月5日(金)までにe-mailにて送付してください。参加者は必ず登録が必要です。登録用紙は日本旧石器学会のウェブサイト(<http://palaolithic.jp/index.htm>)から取得することができます。

聴講、および討論への参加のみを希望の場合、日本語の登録用紙でも登録できます。日本語登録用紙は日本旧石器学会ウェブサイト(<http://palaolithic.jp/index.htm>)から取得することができます。

登録料

登録料の支払いは、現金をお願いします。クレジットカード・カードは受け付けません。

10,000円

*会議グッズ(名札、予稿集等)、ウェルカムパーティー、25・26日昼食代、フェアウェルパーティーを含む。

*巡検の料金は別途徴収します。

IV. 巡検

現在実行委員会で、東京近郊で発掘調査の現場見学が可能な巡検の候補地を検討しておりますが、年度初めまで不確定要素が多いため、詳細はしばしお待ちください。旧石器時代遺跡の発掘調査現場の見学が可能な候補地の情報がありましたら、下記メールアドレスまで情報提供の程よろしくお願いいたします。

e-mail: apajapan@gmail.com

V. 宿泊

宿泊は、参加者ご自身で確保してください。最寄り駅の南大沢駅周辺には、宿泊施設はございません。京王線沿線近隣の橋本駅周辺か多摩センター駅周辺には、宿泊施設が多数あり便利です。

VI. 総会

日本旧石器学会2016年度総会は、APA日本大会2日目、2016年6月25日(土)の12:20-13:30におこなわれます。

VII. その他

例年の日本旧石器学会講演会・研究発表・ポスターセッション・シンポジウムの開催および同予稿集の刊行は、2016年度はおこないません。会誌「旧石器研究」は例年通り刊行いたします。

2015 年度普及講演会

2015 年度の普及講演会を下記のように考古学研究会岡山例会と共催で行います。会員の皆様も参加いただけますので、ご案内いたします。

記

1. 日時 : 2016 年 1 月 9 日 (土) 14:00
~ 17:00
2. 場所 : 岡山大学
文法経講義棟 19 番教室
3. 内容
○報告
丹羽野裕「後期旧石器時代の隠岐産黒曜石の広がり」
稲田陽介「隠岐の島町久見高丸遺跡の発掘調査結果」
及川 穰ほか「島根県隠岐諸島における黒曜石原産地と遺跡の踏査・試掘報告」
○鼎談 「隠岐の黒曜石獲得と利用について」
上記三者による鼎談

関連学会情報

第32回 中・四国旧石器文化談話会開催報告

第 32 回中・四国旧石器文化談話会は 2015 年 11 月 14 日 (土)、15 日 (日) の両日、国立大学法人広島大学東千田キャンパスにおいて開催された。今回のテーマは「広島県における後期旧石器時代開始期の石器群」と題して、近年の広島県内における始良 Tn 火山灰降下以前の石器群の調査資料を中心として、後期旧石器時代初頭の石器群



写真 4 中・四国旧石器文化談話会 資料見学風景

の様相について議論が行われた。

各発表者と内容は以下のとおりである。

11 月 14 日

調査事例報告 稲田陽介「島根県隠岐の島町久見高丸遺跡の調査」

基調報告 1 沖 憲明「広島県北東部の旧石器時代石器群」

基調報告 2 下岡順直「広島県北東部地域の旧石器時代堆積物の数値年代」

11 月 15 日

基調報告 3 藤野次史「西日本における後期旧石器時代初頭の石器群」

基調報告 4 大竹憲昭「長野県における後期旧石器時代開始期—竹佐中原遺跡を中心に—」

討論「広島県における後期旧石器時代開始期の石器群」

初日の調査事例報告では稲田陽介氏から隠岐の島黒曜石原産地直下に立地する久見高丸遺跡の調査概要について報告が行われた。基調報告では沖憲明氏から広島北東部の三次・庄原地域で近年調査、報告が行われた遺跡の様相と編年的位置付けについて、続いて下岡順直氏からは同地域の旧石器遺跡の包含層や降下火山灰の数値年代データの現状と今後の課題について発表が行われた。

2 日目の基調報告は、藤野次史氏によって西日本の後期旧石器時代初頭を前後する時期の石器群の層位と石器組成の様相、そして遺跡で得られている年代測定値との関係がまとめられ、続いて大竹憲昭氏によって竹佐中原遺跡を中心に、長野県の後期旧石器時代初頭の石器群の組成と遺跡規模の変化について報告がされた。

討論では、まず沖氏が提示した広島県北東部の前半期石器群の変遷について検討した。次いで広島県下本谷遺跡や只野原 3 号遺跡に関連して後期旧石器時代初頭の石器群について検討し、ナイフ形石器出現以前とされる石器群の起源やその年代、後期旧石器時代成立とそれに先行する時期の様相について、東アジア地域の動向を含めた幅広い意見交換が行われた。(氏家敏之)

第19回 石器文化研究交流会

さいたま大会開催案内

石器文化研究会と第 19 回石器文化研究交流会実行委員会は、2016 年 1 月 30 日・31 日に交流会を行います。ふるってご参加ください。

日 時：2016 年 1 月 30 日（土） 12 時 55 分
～ 17 時 25 分

1 月 31 日（日） 9 時 30 分～ 16 時
00 分

会 場：戸田市郷土博物館（埼玉県戸田市大字新
曽 1707 番地）

JR 埼京線「戸田駅」下車徒歩 9 分

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/>

内 容：最新遺跡調査報告 関東地方の遺跡ほか
計 9 件（30 日 13 時 00 分～）

研究討論会「大形尖頭器の出現とその背景」

（31 日 9 時 30 分～）

詳しくは、石器文化研究会 H P をご覧ください。

<http://www.sekki.jp/>

お知らせ

日本旧石器学会研究グループの募集

日本旧石器学会では、旧石器考古学およびこれに関連する研究課題について国内・国外の情報を交換し研究することを目的として、研究グループを設置しています。その「日本旧石器学会研究グループ規定」には自由に研究を行うことができる上、運営費を補助することも盛り込まれております。

つきましては 2016 年度の日本旧石器学会研究グループを募集します。研究グループの発足を希望する会員は、グループ名、代表者名、連絡先、研究目的、活動予定期間、参加者数、運営費交付希望の有無などを記入して本学会事務局に応募してください。募集期間は 2016 年 3 月 31 日（木）まで。応募・問い合わせ先は、日本旧石器学会事務局へ電子メールまたは郵送でお願いします。

メーリングリストの運用について

既に何度かご連絡しているようにメーリングリストの運用を行っています。これは、学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、運用から 2 年以上がたちましたがまだ会員の 3 割程度の方にしか登録いただけていません。まだ登録いただけていない会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録ください。メールアドレスを、総務委員の山岡のメールアドレス

(takuyayamaoka@yahoo.co.jp) までお知らせください。速やかにご利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力をお願い申し上げます。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されているため、会費は原則前納とさせていただいております。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の支払い手続きをなされますようお願い申し上げます。年会費は 5,000 円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号 00180-8-408055 です。全国の郵便局にて簡単に手続きいただけます。

なお、転居された方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、当会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送されません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載していただくか、または日本旧石器学会事務局までメール等でご連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページ (<http://palaeolithic.jp/join.htm>) からダウンロードし、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送で送付してください。本年度から、入会申込書には、申請論文等のうち一本を CD などの電子媒体に書き込んだものを添付するようお願いしています。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第 31 号

2015 年 12 月 16 日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会

高倉 純・氏家敏之・笹原芳郎

野口 淳・藤野次史

発行：日本旧石器学会

事務局：〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

静岡大学人文社会科学部社会学科山岡拓也
研究室

E-mail jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>